

平成26年度日本小児外科学会
第7回定例理事会議事録

日 時：平成 27 年 5 月 27 日（木） 10：00～14：00

会 場：神戸国際会議場 5F 会議室 505

出席者：仁尾正記（理事長）、黒田達夫（副理事長）、濱田吉則（前会長）、前田貢作（理事・会長）、田口智章（理事・副会長）、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡、八木 實、漆原直人、米倉竹夫（以上理事）、岩中 督、菑澤融司（以上監事）、菱木知郎（庶務委員長）、渡井 有（財務会計委員長）、小室広昭（庶務副委員長）、吉澤穰治（財務会計副委員長）、田中 拡（庶務委員）、尾藤祐子（庶務委員）、堀口裕輔（事務局）

議事案件：

議 事：

1. 第7回定例理事会の議事録署名人は、松藤 凡理事、八木 實理事とした。
2. 平成26年第6回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。
3. 報告事項
 - 1) 理事長報告（仁尾理事長）

仁尾理事長より以下の報告があり、了承された。

 - (1) 外科関連学会協議会からの通信文「男女共同参画に向けて申し入れの件」を受領した。
 - (2) 厚生労働省医薬食品局からの寄贈本「医薬品・医療機器安全性情報 No.321～322」を受領した。
 - (3) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol.45No.4～5」を受領した。
 - (4) 日本外科学会からの通信文「外科専門医認定試験および予備試験日程のお知らせ」を受領した。
 - (5) 学術著作権協会からの「常任理事選任のお知らせ」を受領した。
 - (6) 日本外科学会からの通信文「定期学術集会開催日のお知らせ」を受領した。
 - (7) 日本小児科医会からの通信文「公益社団法人化のお知らせ」を受領した。
 - (8) がんの子供を守る会からの通信文「啓発イベント 小児がん医療の姿～いま そしてこれから～開催報告」を受領した。
 - (9) 日本医学会からのチラシ「第 147 回日本医学会シンポジウムの開催について」を受領した。
 - (10) 日本医学会からの通信文「平成 27 年度日本医師会医学賞ならびに医学研究奨励賞候補推薦について」理事長より、報告があり了承された。
 - (11) 医療機器産業連合会からの寄贈本「医機連ニュース第 89 号」を受領した。
 - (12) 難病のこども支援全国ネットワークから寄贈本「がんばれ！Vol.150」を受領した。
 - (13) 日本医療機能評価機構からの寄贈本「NEWS LETTER 5 月号」を受領した。
 - (14) 日本医療機能評価機構からのチラシ「医療の質・安全に関するセミナー案内」を受領した。
 - (15) 日本医療安全調査機構からの通信文「4/28 協力関係学会説明会配布資料一式」を受領した。

- (16) 日本医学会からの通信文「日本医学会だより No.53」を受領した。
(17) 日本リウマチ学会からの通信文「新理事長就任の挨拶」を受領した。

4. 審議事項

1) 第52回学術集会開催報告（前田会長）

前田前会長より報告があり、以下のように了承された。

日 時：平成 27 年 5 月 28 日（木）、29 日（金）、30 日（土）

会 場：神戸国際会議場

テーマ：全てはこども達の笑顔のために：Challenge and Care

演題は700題を超える応募があり、デジタルポスターを導入した。

2) 総会・評議員会進行手順について（菱木庶務委員長）

菱木庶務委員長より、総会・評議員会進行手順について資料に基づき、説明された。また、評議員会での議論の都合上、各種委員会報告についてなるべく手短かに報告いただくよう要望された。

3) 次期理事/次期監事/次期副会長選任について（菱木庶務委員長）

菱木庶務委員長より、説明があり、了承された。

4) 庶務委員会（菱木庶務委員長）

菱木庶務委員長より会員動向について、以下の報告があり、承認された。

平成 27 年 3 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,870 名、評議員 311 名、名誉会員 53 名（うち海外 8 名）、特別会員 66 名（うち海外 1 名）の合計 2,300 名である。

また、平成 26 年 4 月～平成 27 年 4 月までの物故会員は松村光芳、横山 隆、諏訪智英、平井慶徳、生駒文彦、三杉和章、小林孝明、住友健三、守屋荒夫各先生の 9 名であることが報告された。

5) 各種委員会報告

(1) 国際・広報委員会報告（仁尾理事長）

仁尾担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- ・ 他団体からの日本小児外科学会会員宛メール配信によるアンケート等周知依頼について、庶務委員会内規へ変更し、「会員の情報を電子媒体での頒布をしないものとする」とした。また、アンケート等依頼内容の判断は庶務委員会にて審査担当委員会を決定することとなった。
- ・ 学会英語版ホームページの改訂を実施した。
- ・ 国際協力のひろばへ 3 名より寄稿がり、ホームページへ掲載した。
- ・ 子どもと ICT 提言を学会機関誌とホームページに掲載した。
- ・ 日本小児外科学会会員ニュースを月 1 回国際広報委員会より会員にメール配信することとなった。
- ・ カンボジア小児外科学会が 2014 年 11 月に開催され、テーマは“Working together

to Improve Neonatal Care” , and “Surgical Strategy in Cancer Management” as a specific and general theme respectively “であった。

- PAPS JAPAN について、2014 年より北川博昭先生が president に就任し、また、2018 年の PAPS は札幌で黒田達夫先生が主催されることに決定した。
- 日本小児外科学会「禁煙宣言」(案)を作成し、評議員会に上申することとなった。

(2) 機関誌委員会（北川担当理事）

北川担当理事より、資料に基づき、以下報告があり承認された。

- 2015 年度の優秀論文賞として以下 2 論文が推薦され、承認された。
 - ◆原著 6 号 気管支閉鎖症に関連した肺嚢胞性病変の病理学的解析—特に CCAM との関連性について— 小森 広嗣先生東京都立小児総合医療センター外科
 - ◆症例報告 5 号 右肺低形成・left pulmonary artery sling・bridging bronchus を合併した先天性気管狭窄症に対してスライド気管形成術を施行した 1 例 大片祐一先生 兵庫県立こども病院外科
- 昨年度の投稿論文は原著 24 編、症例報告 68 編とやや原著論文数の減少を認めるが、ここ数年は概ね大きな変化はない。投稿から採用までの平均日数も約 150 日前後であり昨年と同等であった。ただし採用率に関しては多重投稿が疑われる論文の提出が数編見られており昨年度より約 10%弱低下している。
- 論文へのオンラインでのアクセス状況について、2013 年 10 月より国内からの全文アクセス数は徐々に増加しており、特に昨年度の増加は著しい。メールのマガジン形式の変更後の効果が見られているものと思われる。また、海外からのアクセス件数も増加している。2014 年は、49 カ国から 7,365 件（2013 年：36 カ国から 2,667 件）の全文アクセスが見られた。
- 投稿規定の変更を行った。
- 「医学研究および研究発表における倫理的問題に関する見解および勧告」改定にともない本学会の資料の変更を行った。
- 第 7 回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)総会、シンポジウム（平成 26 年 11 月 5 日）に参加した。
- 査読依頼文（COI の確認文追記）、投稿者への修正依頼文（チェックリストの追記）の変更を行った。
- 日本小児外科学会機関誌（学術集会抄録号）の取り扱いと公式英文誌（PSI）購入に関する会員への意向調査を実施した。抄録号：約 8 割の先生が PDF 化してホームページに掲載、冊子体年間購読者には事前送付し、その他の希望者は学術集会会場にて 2,000 円で販売することに賛成している。PSI：約 7 割の先生が 1 万円に値下げしても購読を希望しない。ただし、評議員に購読が義務化された場合には電子版を希望する結果となっている。

(3) 保険診療委員会（窪田担当理事）

窪田担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- 平成28年度診療報酬改定に向けての要望（新設7項目、改正5項目）

技術新設（7項目）

1位：鏡視下手術の新規術式採用（一括採用）

アンケートで施行率20%以上、外保連試案収載済みの3術式：胸腔鏡下食道閉鎖症手術（116,329点）、腹腔鏡下総胆管拡張症手術（107,436点）、腹腔鏡下腸重積症整復術（34,861点）。共同提案あり：日本外科学会、日本内視鏡外科学会（胸腔鏡下食道閉鎖症手術）、日本肝胆膵外科学会（腹腔鏡下総胆管拡張症手術）

2位：短期滞在手術等基本料（日帰りの場合、小児全身麻酔の場合）

全身麻酔下に行われる小児日帰り手術（鼠径ヘルニア等の手術や検査、計19項目）に対する短期滞在手術等基本料、4200点、共同提案あり：日本外科学会

3位：処置における小児加算

高位浣腸・高圧浣腸・洗腸、膀胱留置カテーテル設置・交換、導尿処置に対して、3歳未満100点、6歳未満50点の加算。共同提案あり：日本周産期・新生児医学会

4位：小児慢性便秘症指導管理料

100点

5位：血中セレン濃度測定

150点、共同提案あり：日本経静脈経腸栄養学会

6位：小児包茎指導管理料

100点、共同提案あり：日本泌尿器科学会、日本小児泌尿器科学会

7位：腹腔鏡下胆道閉鎖症手術

アンケートで施行率11.6%、外保連試案未収載、医材料調査により191,593点

技術改正（5項目）

1位：短期滞在手術等基本料3の鼠径ヘルニア（直視下および腹腔鏡下）の改正
現行の15歳区分から6歳区分への変更、昨年6月に厚労省へ上申書を提出済

2位：小児科療養指導料の算定疾患の拡大

小児慢性特定疾患に該当する小児外科疾患への適応拡大

3位：手術通則7の適応拡大

新生児手術加算について鏡視下手術や仙骨会陰式鎖肛手術等への適応拡大

4位：小児深鎮静L001-2静脈麻酔（複雑な場合）の改正

小児の場合には常勤の麻酔科医という条件を削除

5位：組織試験採取、切採法 直腸（直腸吸引生検）の増点

現行の650点から1,850点への増点

(4) 教育委員会（松藤担当理事）

松藤担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- 第30回日本小児外科学会卒後教育セミナーを第51回学術集会会期に合わせて開催した。第31回日本小児外科学会卒後教育セミナーは、平成27年5月30日（土）、31日（日）の2日間、第52回学術集会に合わせて開催し、シリーズ1回目で、小児外科の基本的な管理・疾患について講義を行う。

- ・ 第5回内視鏡手術セミナーを第51回学術集会に合わせて開催した。第6回内視鏡手術セミナーを、平成27年5月30日（土）第31回日本小児外科学会卒後教育セミナーの前に開催し、セミナー内容は、腹腔鏡下噴門形成術（傾向と対策）と腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術(LPEC)である。
- ・ 小児外科用語集を改訂する作業を進めている。小児外科疾患用語集を PDF ファイルとし、学会ホームページ会員ページへの掲載を行い、会員からの意見を求める予定である。
- ・ 卒前教育アンケートの結果を踏まえた学生・研修医等の紹介システムの構築の素案を作成している。
- ・ 卒後教育セミナーのありかたについて、現在、外科サブスペシャリティの4学会（消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、小児外科）の中で専門医の取得に卒後教育セミナー受講が必須条件として含まれていないのは、小児外科学会のみである。卒後教育セミナーの専門医取得の必須可等も含めたセミナーの在り方については、専門医制度の成り行きを確認しつつ、今後の検討課題である。

(5) 悪性腫瘍委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 小児の外科的悪性腫瘍 2013年次登録症例の全国集計結果を学会誌2015年第51巻1号に掲載した。登録数は計487例あり、96施設から登録された。経費削減のため別刷は作成せずPDFファイルのみとした。今後、他学会の登録事業や法制化、負担の軽減のため登録システムとの連携を検討する予定である。
- ・ 学会ホームページに“悪性腫瘍登録のお願い”を会員専用ページに、公開できる部分を一般向けのページに掲載した。また、2013年次登録症例の全国集計結果を今後掲載予定である。
- ・ 年次登録事業の倫理審査は2014年までの期間までであったため、2015年以降のその更新を京都府立医科大学にて審査を受け承認された（新規登録平成35年まで、追跡平成40年まで）。
- ・ 日本小児・思春期・若年成人がん関連学会協議会について、小児・思春期・若年成人がんの実態把握のために計12学会からなる協議会として開設され、各学会のデータベースの利用可能かを検討することになった。悪性腫瘍委員会としては、2000年以降の電子化されたデータが現存するものを対象として、利用可能であると判断した。
- ・ 登録は地区センターによってはまだ紙ベースだけで運用している地区もあり、今後の電子化を進めていく。
- ・ 悪性腫瘍委員会での登録データの利活用による学会発表、論文作成に関して。データベース委員会でのNCDにおける臨床データの取扱い規定および研究実施計画書のフォーマットを作成中である。

(6) 学術・先進医療検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、資料に基づき以下報告があり承認された。

- ・ 第 51 回学術集会優秀ビデオ作品 7 演題を平成 26 年 6 月 10 日から学会ホームページで公開している。
- ・ 科研調査について、小児外科の科研採択率の報告のための全国調査を行っていたが、採択率は科研のホームページに公開されるようになっており、全国調査の中止が第 5 回理事会で承認された。そのため、学会ホームページから学術振興会の科研採択率の画面にジャンプアクセスできるように国際広報に依頼し、ジャンプアクセスが可能になった。
- ・ 新生児外科全国アンケート調査について、第 52 回学術集会の演題に応募し、PSI Japanese issue に論文を投稿した。その他の図表は近く HP に掲載予定である。
- ・ 会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可
 - ① 日本小児外科学会保険診療委員会「保険収載されていたに内視鏡手術に関するアンケート調査」：平成 26 年 9 月 6 日承認
 - ② 平成 26 年度厚生労働省科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）研究「先天性難治性稀少泌尿器疾患群（総排泄腔遺残、総排泄腔外反、MRKH 症候群）におけるスムーズな成人期医療移行のための分類・診断・治療ガイドライン作成」のアンケート調査：平成 26 年 10 月 15 日承認
 - ③ 厚生労働省班会議「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」の先天性吸収不全症班が行う希少な先天性吸収不全症 19 疾患についての全国調査アンケート調査：平成 26 年 10 月 27 日承認
 - ④ 平成 26－28 年度厚生労働省科学研究補助金（難治性疾患克服研究事業）「小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究」に関する研究班から「Hirschsprung 病に関するアンケート全国調査」：2 回の審議結果、平成 27 年 2 月 12 日承認
 - ⑤ 小児ストーマ研究会装具等検討委員会委員「超・極低出生体重児のストーマケアに関するアンケート調査」：2 回審議の結果、再検討の依頼を平成 27 年 2 月 13 日に通知
 - ⑥ 名古屋市立大学病院 小児・移植外科 近藤知史先生より「漏斗胸と OSAS（Obstructive Sleep Apnea Syndrome）閉塞性睡眠時無呼吸症候群に関するアンケート」：2 回審議の結果、平成 27 年 3 月 10 日承認
 - ⑦ ロサンゼルス小児病院の宮田 真医師より「小児外科研修における症例数と主観的習熟度の相関に関するアンケート調査」：2 回の審議の結果、不承認となり平成 27 年 4 月 8 日に通知
- ・ 他の学会、研究班からの診断基準、重症度判定、ガイドラインなどの評価および承認依頼
 - ① 有志賞推薦希望者 日本大学 星 玲奈先生について学会としての推薦を審議し、5 月 29 日理事会に答申し、承認を得、推薦の手続きを行った。

- ② 「気道狭窄に関する全国実態調査」研究代表者から「小児気道狭窄に関する全国実施調査（一次調査）」：平成 26 年 6 月 4 日承認
- ③ 小児慢性特定疾患治療研究事業対象疾患の「診断の手引き」作成の先天性胆道拡張症：1 月に承認後、若干の修正のため再審議：委員会で承認，理事会に答申し平成 26 年 6 月 30 日承認
- ④ 医薬品医療機器総合機構（PMDA）小児用医療機器開発専門部会当学会に小児の患者において、今後開発や導入が望まれる機器についての意見：リストアップして平成 26 年 6 月 17 日提出
- ⑤ 日本小児科学会小児慢性特定疾患委員会より小児慢性特定疾患治療研究事業対象疾患の「診断の手引き」「先天性胆道拡張症」について再度の評価依頼：平成 26 年 6 月 30 日承認
- ⑥ 日本小児科学会小児慢性特定疾患委員会より小児慢性特定疾患対象疾患見直しのための「診断の手引き」の「気道狭窄」「短腸症」および「短腸症の概念」：平成 26 年 7 月 22 日承認
- ⑦ 小児慢性特定疾患対象患児見直しのための「診断の手引きの疾患概念」：平成 26 年 8 月 4 日承認
- ⑧ 厚生労働科学研究補助金 成育疾患克服等次世代育成基盤研究事業（健やか次世代育成総合研究事業）「慢性疾患を有する児の社会生活支援や療養生活支援に関する実態調査およびそれら施策の充実に関する研究」分担研究「患者・家族に対する支援体制の構築に関する研究」に係るパブリックコメントについての依頼。10 月 18 日結果を報告
- ⑨ 平成 26 年度 厚生労働省科学研究費 難治性疾患等克服研究事業のリンパ管疾患担当研究分担者から「難病指定におけるリンパ管奇形（リンパ管 腫）およびリンパ管腫症・ゴーハム病の診断基準および重症度分類案」：平成 26 年 12 月 20 日承認
- ⑩ 平成 26 年 12 月 8 日国際医療福祉大学熱海病院小児科・小児外科 伊藤康雄先生から理事長宛に舌小帯短縮症の診療ガイドライン作成の要望があり、当委員会に意見を求められたため、委員会の意見を報告
- ⑪ 小児慢性機能性便秘診療ガイドライン」の当学会ホームページ掲載について：平成 27 年 2 月 12 日に承認、ホームページに掲載
- ⑫ 小児慢性特定疾患治療研究事業対象疾患「診断の手引き」作成：疾患概念のうち「胆道閉鎖症」および「先天性胆道拡張症」について成人期以降の注意点について追記があり、その追記内容についての審議：平成 27 年 3 月 23 日に承認

(7) 倫理安全管理委員会（漆原担当理事）

漆原担当理事より、以下報告があり承認された。

- ・ 利益相反・倫理安全管理講習会

第7回講習会から医療倫理・安全管理講習会から医療倫理安全管理・利益相反講習

会と名称も変更して、学術集会の2014年5月8日（金）に大阪大学大学院医学研究科教授 土岐祐一郎先生に「医学研究における利益相反マネージメント」と題してご講演いただいた。

第8回の倫理安全管理・利益相反講習会として、学術集会第1日目の5月28日（木）に国立病院機構徳島病院病院長 田中信一郎先生に「医療側からみた医療安全」と題してご講演いただく。

- ・ 感染対策セミナー

今年度の学術集会から感染対策セミナーを開催することとなった。第1回の感染対策セミナーを学術集会第2日目の5月29日（金）兵庫医科大学感染制御学教授・感染制御部部長の竹末芳生先生に「手術部位感染（SSI）予防対策」と題してご講演いただく。

- ・ 倫理・安全管理委員会の活動として、学会会員向け情報発信として、「倫理・安全管理委員会便り」を定期的に学会ホームページに掲載した。

- ・ 日本医療安全調査機構への協力および医療事故調査制度の設立

医療事故調査制度（第三者機関の設立 医療事故調査・支援センター）の法案が成立し平成27年10月1日より実施されることになった。またそれに伴い日本医療安全調査機構からの依頼を受け、協力学会としての統括責任者、中央審査委員推薦担当者、地域（評価委員）推薦担当者を選定した。

(8) データベース委員会（米倉担当理事）

米倉担当理事より、以下報告があり承認された。

- ・ 「日本小児外科学会が収集した臨床データの取り扱いに関する規程」および「同内規」を制定した。日本小児外科学会が保有する資料の閲覧に対しては「閲覧申請書（様式1）」を、NCDの登録データを利用した臨床調査研究の申請は「研究実施計画書（様式2）」を、用いてデータベース委員会に申請することとなった。
- ・ 小児外科領域でもその医療水準評価項目にあたるNCD-Pediatric (NCD-P)の運用を2015年1月より開始した。日常疾患などの一般的な手術は1階建て部分とし、虫垂炎手術は1.5階建て部分とした。2階建て部分であるNCD-Pの対象術式は①新生児手術、②高難度手術、③内視鏡手術（①、②のうち内視鏡手術）からなり、全手術の10-15%を占める。新生児外科手術統計の調査項目もNCD-Pの中に取り込んだ。
- ・ NCD小児外科領域の円滑な運用と会員へのフィードバックを図るため、NCD-小児外科領域会議の開催、アニュアルレポートの作成と開示、小児外科診断マスターの改編、NCD登録に対するQ & Aの蓄積と開示、2014年および2015年の小児外科-NCD術式対応表の作成、小児外科領域からの追加希望術式の作成を行った。

(9) 小児救急検討委員会（松藤担当理事）

松藤担当理事より、以下報告があり承認された

- ・ 第5回小児救急セミナーはテーマを「小児性腺の救急 ～急性陰嚢症と卵巣捻転～」として第52回日本小児外科学会学術集会、第1日目18時から開催する。

- ・ PALS講習会について、学術集会期間に併せて開催せずに単独開催を目的にプログラム案が資料に基づいて、提案され、承認された。
- ・ 日本救急医学会：第4回PECEP (Pediatric Emergency Care and Evaluation for Physicians) のコース講師として参加した。
- ・ 日本蘇生協議会：日本蘇生協議会 (JRC) ガイドライン 2015 作成委員会に小児蘇生の項目で参加した。
- ・ 「ボタン電池の誤飲」について CBC ラジオ (東海地方) からの電話取材依頼があり、大島委員が対応した。

(10) 利益相反検討委員会 (漆原担当理事)

漆原担当理事より、以下報告があり承認された。

- ・ 日本医学会からの「医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン」が平成26年2月に改定された。それにもない「臨床研究の利益相反に関する指針」、「臨床研究のCOI (利益相反) に関する指針運用規則」の改定を行った。この改訂版については、平成26年10月31日付で学会ホームページに掲載した。
- ・ 機関誌委員会と協議の上、学会誌の論文著者に加えて、論文の査読者に対しても、利益相反状態の問い合わせを行うことを決定した。
- ・ 倫理安全管理委員会と共催の形で、年1回、倫理安全管理・利益相反講習会を開催している。今年度は、学術集会第1日目の5月28日(木)に国立病院機構徳島病院院長 田中信一郎先生にお願いし、「医師側からみた医療安全」と題して講演予定である。

(11) ワークライフバランス検討委員会 (窪田担当理事)

窪田担当理事より、以下報告があり承認された。

- ・ 妊娠・出産・育児・介護などワークライフバランスからみた小児外科専門医更新条件の妥当性について、他学会と比較して認定登録医制度について学会ホームページへ掲載した。
- ・ 委啓蒙活動として、毎年秋季シンポ・PSJM期間中に講演会を企画し、昨年は講師に桃井眞里子先生を迎え好評を得た。今年は10月29日開催予定であり、講師には、本年1月に内閣府が行った「女性が輝く先進企業表彰」で内閣府特命担当大臣賞を受賞した有限会社ゼムケン代表取締役籠田淳子氏を迎える予定である。
- ・ 学術集会会期中の託児所の料金設定について、利用者、利用者以外の会員の意見を収集し、理事会に情報提供していく予定である。
- ・ 学会における男女共同参画とクオータ制導入について、委員会として意思決定機関への女性参画の推進、女性委員の過重負担軽減を目的とする「推薦評議員枠」を設定し女性評議員数の増数を図ることが望まれるという結論に達したが、会員の総意を反映したものになっているかどうか確認するため、オープンセミナーを第52回学術集会会期中に開催する。

(11) トランジション検討委員会（八木担当理事）

八木担当理事より、以下報告があり承認された。

- ・ 成人診療科での病態の理解や治療法の選択などがむずかしく、移行困難であると予想された疾患を①直腸肛門奇形 ②直腸膀胱障害（二分脊椎症） ③胆道閉鎖症（非移植例） ④腸管不全（H 病類縁疾患、短腸症候群）⑤胆道拡張症（晩期合併症） にしぼり、小児科慢性疾患患者の移行期支援 WG の提案にのっとり疾患毎のガイドブック作成を作成した。書式は以下のように設定した。
 1. 疾患名および病態
 2. 一般的な治療概略 【症状】【診断時期】【検査】【外科治療、内科治療】
 3. 合併症、後遺障害とその対応
 4. 社会支援
【小児慢性特定疾患事業】【身体障害者手帳】【特別児童扶養手当】【生活用具支給補助】
 5. 移行期、成人期の問題点
【就学、就労】【医療費、保険制度】【妊娠、出産】【継続すべき治療】さらに、6 児外科疾患のトランジション症例の割合 について、大学病院および成育医療施設での調査を行っている。
- ・ 患者用サマリー用紙作成を計画する。医師向けガイドブックの疾患の追加や内容の更新なども検討する。今後小児科学会の移行期支援についてのワーキンググループに参加する他、外科学会など他学会にも小児外科疾患のトランジションについての問題点を認識してもらい働きをしていく。

6) 理事長報告（仁尾理事長）

仁尾理事長より、評議員会における理事長報告の内容につき以下の説明があり、また、黒田副理事長より総合調整委員会報告の内容につき、説明があり、了承された。

- (1) 定例理事会報告
- (2) 海外名誉会員・特別会員の招待について
- (3) 日本医学会報告
- (4) 日本医学会連合報告
- (5) 外科関連学会協議会報告
- (6) 日本専門医制評価・認定機構報告
- (7) 日本専門医機構報告
- (8) 外科関連専門医制度委員会報告
- (9) NCD 報告
- (10) 臓器移植関連学会協議会について
- (11) 日本小児がん研究グループ JCCG について
- (12) 秋季シンポジウム委員会報告
- (13) 総合調整委員会

この項目は、黒田達夫副理事長（総合調整委員会委員長）より説明があった。

- (14) 学術集会の在り方に関する作業部会について
- (15) 日本小児連絡協議会（四者協）について
- (16) 日本小児科学会小児慢性特定疾患委員会について
- (17) 日本小児期外科系関連学会協議会について
- (18) 健やか親子 21 について
- (19) 規約委員会の設置について

7) 専門医制度委員会報告（黒田副理事長）

黒田専門医制度庶務委員長より以下の報告があり了承された。

【施設認定委員会審査結果報告】

- ・ 新規申請
認定施設 申請 2 施設，承認 2 施設
特定施設 申請 1 施設，承認 1 施設
教育関連施設 申請 3 施設，承認 3 施設
- ・ 更新申請
認定施設 申請 1 4 施設，承認 1 4 施設
教育関連施設 申請 5 施設，承認 5 施設
- ・ 年次報告書（2013 年分）
審査件数 1 5 4 施設
認定施設 9 1，教育関連施設 5 8，特定施設 5

【専門医認定委員会審査結果報告】

- ・ 指導医新規 申請 2 2 名，認定 1 6 名，却下 6 名（却下理由：原著不足）
- ・ 指導医更新 申請 1 1 5 名，認定 1 1 4 名，保留 1 名
（保留理由：外科専門医または日本外科学会認定登録医の資格を有していない）
- ・ 専門医新規 申請 2 0 名，認定 2 0 名
- ・ 専門医更新 申請 1 3 3 名，認定 1 3 0 名，保留 3 名
（保留理由：外科専門医または日本外科学会認定登録医の資格を有していない）
- ・ 認定登録医 申請 1 5 名，認定 1 4 名，保留 1 名
（保留理由：外科専門医または日本外科学会認定登録医の資格を有していない）
- ・ 専門医筆記試験
国試方式 8 0 問 1 4 0 分 委員会方式 2 0 問 4 0 分
受験者 5 6 名 合格者 3 6 名（6 4. 3 %）

8) 財務会計委員会（渡井財務会計委員長）

渡井財務会計委員長より、資料に基づき報告がなされ、承認された。

9) 日本医学会連合役員選挙候補者推薦について（仁尾理事長）

仁尾理事長より資料に基づき報告がなされ、審議の結果、関連学会における状況を把握した上で、推薦者は理事長一任とすることが承認された。

10) 監事退任挨拶（岩中監事）

岩中監事より退任の挨拶があった。

13) 庶務副委員長退任挨拶（小室庶務副委員長）

小室庶務副委員長より退任の挨拶があった。

14) 財務会計副委員長退任挨拶（吉澤財務会計副委員長）

吉澤財務会計副委員長より退任の挨拶があった。

15) 庶務委員退任挨拶（田中庶務委員）

田中庶務委員より退任の挨拶があった。

16) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成27年5月30日（水）12：00～13：00 神戸国際会議場 会議室505にて開催することが確認された。

理事長

理事

理事
